

北米から見た柑橘類輸出国の現状

FreshPlaza 2023年4月20日

輸入柑橘類の様子はどうか?

北半球産柑橘類の出荷シーズンが終わりつつあり、南半球の出荷シーズンが始まる中、柑橘類は着実に入荷している。

レモン: サリックスフルーツ (Salix Fruits) 社のアレハンドロ・モラレホCEOは、「南アフリカは4月の第1週に、同国にとって最も重要な市場である中東に向けて、またカナダ向けにもレモンの出荷を始めた」と述べ、南半球の主要な柑橘類輸出国である南アフリカはすべての柑橘類の品目で輸出量が増えていると付け加えた。(以下「」は同CEOの発言)

現在、米国はメキシコ産レモンの最後の荷を調達している。一方、今年雨が遅れて干ばつの影響を受けたアルゼンチンは、ロシア向けや他のヨーロッパ諸国向けとともにカナダへの出荷を開始している。「アルゼンチンは夏の干ばつに苦しんだが、レモンの出荷量はすべての市場向けで保証されている。輸出先の関係者からはアルゼンチンからの貨物が5月中旬に到着し始めるのを待っている。」

マンダリン: マンダリン市場は、供給がまだ北半球産でカバーされている唯一の市場である。

米国はモロッコ産マンダリンの最後の荷を調達している。

一方、チリとペルーはどちらも出荷の準備が整うのを待っている。「ペルーでは今後数週間のうちに早生マンダリンの出荷シーズンが始まる。北半球市場から見るとペルーはシーズン後半のマンダリン供給国となる。ペルーからの最初の果実は、北半球市場への出荷のタイミングを見計らっている。」

チリ産に関しては、クレメンタインが5月中旬に米国の港に到着すると見られる。同CEOは、チリの出荷量は2022年の激しい霜害から回復したと付け加えた。

季節的なタイミング

全体的に見て、同CEOは、後半の柑橘類はメキシコ、スペイン、トルコ、エジプト、モロッコからの出荷が続くものの、スペイン、モロッコ、トルコからの出荷量が不足しているため、南半球産の柑橘類の出荷時期が早まると述べている。「米国では、冬の雨が貯水池の水量を回復する恵みとなった一方で、一部の果実に品質上の問題をもたらしているが、出荷量は多い。」

需要については、米国とカナダでは、輸入柑橘類の需要が強い。「海上輸送運賃の下落により最も遠い地域の生産者の期待が高まるのであれば、販売価格はそれほど変わらないだろう。」

同CEOはまた、サリックス社はアルゼンチン、南アフリカ、チリ、ペルー、ウルグアイなどの調達先からの柑橘類の提供を続けると述べた。「エジプト事務所からの供給に非常に満足している。これにより、北半球の来シーズンに向けて大量の供給が得られる。これは、弊社が過去2年間現地で取り扱ったスペイン産とモロッコ産の優れた品質の果実に上乗せされるものだ。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク